

	1学期の成果	2学期以降への課題	具体的な改善策
国語	<p>○説明文では、筆者の論理展開をおさえながら、要旨を捉えて読むことができた。また、構成や表現の工夫に気づき、筆者の主張を読み取ることができた。</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、情報を正確に集めて自分の考えが伝わるように報告文に書き表すことができた。</p> <p>○同じ作家の本を複数読み、作品の魅力について考えながら読みを広げることができた。</p> <p>○お互いの考えを交流する際にICT機器を使用することで、自分の考えを広げることができた。</p>	<p>○文章の中で、漢字と仮名を適切に使い分け、文字に注意して正しく書くことができるようにする。</p> <p>○思考に関わる語句の量を増やして話や文章の中で使うことができるようになり、活発な話し合い活動に繋がられるようにする。</p> <p>○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるようにする。</p> <p>○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりできるようにする。</p> <p>○読書の幅を広げ、語彙力を豊かに高めていくことができるようにする。</p>	<p>○漢字の学習では、熟語で書いたり、同音異義語に注意したりして宿題等で継続的に学習していく。書いた文章は必ず確認させる。</p> <p>○思考に関わる語句(「しかし」や「要するに」など)を話や文章の中で使うことができるように語彙を表す言葉一覧を教室に掲示して、日常的に慣れ親しませる。</p> <p>○朝の会のスピーチや授業中の友達の発言などの際に、話の目的や伝えたいことを考えながら聞くことができるようにする。また、自分の考えと比較して共感したことなどを発表し、聞く力を高めさせる。</p> <p>○話し合いの際には司会などの役割を決めたり、話し合う視点を明確にしたりして自分の考えを広げさせる。</p> <p>○教材文に関する本の紹介を行うなど、読書に親しむ機会を増やす。また、読書カードを活用し、多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付かせる。</p>
社会	<p>○世界の大陸と主な海洋、主な国の位置などについて、大まかに理解することができた。</p> <p>○地形や気候などに着目して、各種の資料で調べ、まとめ、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉えることができた。</p> <p>○食料生産の学習では、米作り農家の仕事の様子から、工夫や努力、自然環境とのかかわりをとらえ、生産者の現状や課題について関心をもつことができた。</p> <p>○ICT機器を活用し、まとめる活動を行ったことでグラフを読み取ったり、伝えたいことを端的に表現したりする力が高まった。</p>	<p>○食料生産や工業生産など日本の産業に従事している人々の工夫や努力について、具体的に調べ、国民生活を支えていることを理解できるようにする。</p> <p>○ICT機器を活用し必要な情報を収集したり、各種の基本的資料から情報を適切に読み取ったりして、関連性を見つけることができるようにする。</p> <p>○社会的事象の特色や相互の関連について理解し、自分たちの生活とのかかわり合いを考えながら、学習を深めることができるようにする。</p> <p>○学習問題を自分事として捉え、意欲的に調べたり、社会的事象の特色や意味について多角的に考えたりする。</p>	<p>○人々の工夫や努力に気付いたり、より具体的な内容に注目したりすることができるように、グループでの話し合いをする機会を設ける。</p> <p>○グラフや表など資料を正確に読み取れるように、クラス全体で読み取った内容の確認する。</p> <p>○体験的活動、実物資料を取り入れた学習を展開することで、学習した事柄を、より深く考えさせる。</p> <p>○導入で積極的にICT機器を活用して児童の課題意識を高め、興味・関心を引き出すことができるような資料提示を行う。課題意識を共有し、全体で問題を解決していく意識を高める。</p>
算数	<p>○位取り表などの操作活動をすることで、整数や小数の仕組みについて理解を深めたり整数との共通点や計算のきまりを用いて、小数のかけ算やわり算の計算の仕方を理解したりすることができた。</p> <p>○図形についての観察や具体物を操作することを通して直方体や立方体の辺に着目して体積の比べ方を予想し、説明したり数直線を使って立式したりすることができるようになってきた。</p> <p>○習熟度別のクラス分けで少人数指導を行うことにより、一人一人が意欲的に課題に取り組むことができた。</p>	<p>○小数の乗法・除法の計算の仕組みや筆算の仕組みを理解し定着できるようにする。</p> <p>○既習の学習を生かし、別の視点を考えることができるようにする。文章題を読み、必要に応じて数直線や表を利用して、自分の力で立式できるようにする。</p> <p>○自分の考えをノートに書き、進んで説明することができるようにする。</p> <p>○テストやワークシートの記述に際して、今一度確認する習慣を身につける。</p>	<p>○計算問題は、反復練習を行うことにより定着を図る。ICT機器を活用し、自ら学んでいくようにする。</p> <p>○問題文から必要となる情報を導き出し、数直線を活用する中で、対応する言葉を必ずつけることで理解につなげる。</p> <p>○既習事項の確認を丁寧にを行い、学んだことをもとに考えていけるようにする。また、友達の考えを似ている点や、違う点を意識しながら、説明を聞くことで自分の考えも説明させる。</p> <p>○問題の趣旨を把握せず、回答することで起こりうる間違えを防ぐためにも、最後に必ず問題の趣旨と回答を確認する。</p>
理科	<p>○興味・関心をもって、実験をしたり観察をしたりすることができた。</p> <p>○実験の条件を考え、条件を限定しながらインゲンマメを育てて比較し、発芽や成長に必要な要因について理解することができた。</p> <p>○メダカの卵を観察する活動を通して、顕微鏡の正しい使い方を身に付けることができた。</p> <p>○学んだことを生かして、生物の成長について、その共通点や相違点について、理解することができた。</p>	<p>○児童一人一人が実験の技能を体験的に身に付けることができるようにする。</p> <p>○生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって、観察、実験を行うなどの問題解決の活動を行うことができるようにする。</p> <p>○観察、実験の結果を基に考察を行い、次の問題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を捉えたりできるようにする。</p>	<p>○実験の技能が高まるように、教材や器具の充実を図る。デジタル教科書を積極的に活用し、資料や実験方法について詳しく何度も確認させる。</p> <p>○予想、実験条件と方法、結果、考察など、思考の流れを分かりやすく表現することができるようにワークシートを工夫したり、ノート指導を丁寧にしたりする。知識だけでなく、自分の言葉で表現させる。</p> <p>○自分で調べたり観察したりして得た情報をChromebookを使って整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。</p>
音楽	<p>○低音、和音、旋律のそれぞれの役割を生かした楽器を選び、合奏をした。</p> <p>○曲想とリズムの変化との関わりを感じ取りながら表現を工夫することができた。</p>	<p>○歌う姿勢や発声の仕方など、基礎的な能力を伸ばし、自信をもって表現することができるようにする。</p> <p>○パートの役割や関わりを捉え、表現を工夫しながら、合奏を楽しむことができるようにする。</p>	<p>○姿勢や発声、呼吸などを意識して歌う経験を積み重ね、少人数で歌う中で、自分や友達の声を聴いて声を合わせる楽しさを体験する。</p> <p>○個人練習やパート練習の時間を充実させ、合奏の楽しさや表現を工夫して演奏する喜びを感じ取る。</p>
図画工作	<p>○水彩絵の具でグラデーションをつくり、自分のイメージに合った世界を表現することができた。</p> <p>○電動糸のこぎりの正しい使い方を理解し、安全に気を配りながら、板を切るすることができた。</p>	<p>○様々な表現方法を知り、自分の作品制作に生かす力を付けることができるようにする。</p> <p>○カッターナイフや彫刻刀などの道具を安全に扱い、自分なりの表現方法で作品をつくるようにする。</p>	<p>○今まで経験したことのない表現方法を積極的に試すことのできる機会を設ける。</p> <p>○表現方法を工夫している児童の作品や作家の作品を授業の中で紹介していく。</p> <p>○ICT機器を活用し、自分や友達の作品を見たり、交流したりする活動を取り入れる。見方や感じ方から、新しい見方や価値に気付かせる。</p>
家庭	<p>○家庭で行われている仕事に関心をもち、自らの生活と学習を関連させ、意欲的に取り組もうとする姿が見られた。</p> <p>○初めての裁縫の学習では、道具の名称、取り扱う上での注意、玉結び・玉止めをはじめ基礎的な技能を習得することができた。技能の習得については繰り返し行ったり、上手に行うコツについて意見交換をしたりすることでお互い理解が深まった。</p>	<p>○家庭で行われている仕事に関心をもちような課題と学習内容を関連付けて知識や技能を身に付けられるようにする。</p> <p>○2学期以降、ミシン縫いを学習するにあたって、安全で正確な取り扱いができるようにする。調理においても安全に行えるよう工夫していく。</p> <p>○一人一人の技能が定着するよう実践の機会を多くもたせる工夫をする。</p>	<p>○学習したことを家庭で生かせるよう課題を工夫していく。</p> <p>○ミシン縫いの学習では、安全に配慮し、活動する。ICT教材を取り入れて分かりやすく進め、各自がミシン操作ができるようにしていく。</p> <p>○作品製作では実物やICT機器を利用して段階見本を掲示し、各自の進度にあった作業に主体的に取り組ませる。</p> <p>○学習の見通しをもたせることにより、持ち物の準備や作業を計画的に行う。</p>
体育	<p>○短距離走では、タイムを縮めるために8秒間走を通して、ポイントを意識して友達同士でアドバイスをし合って練習することができた。</p> <p>○自己の目標タイムに向かって、場を自ら選択して練習に取り組むことができた。</p> <p>○体ほぐし運動では、タブレット端末を使って動きを確認しながら、場の工夫を考えて仲間とともに運動する楽しさを味わうことができた。</p>	<p>○技の習得や上達のために大切なポイントを自ら見付けることができるようにする。</p> <p>○仲間と伝え合い、話し合いながら解決の仕方を工夫することができるようにする。</p> <p>○自己の課題を見付け、安全に配慮しながら、進んで取り組むことができるようにする。</p>	<p>○技の習得を進める機会を増やし、学習カードなどで振り返る活動を取り入れるようにする。場の工夫をしたり、グループで話し合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>○学習カードや学習資料を単元を通して使用し、児童の気付きや友達との話し合いについての的確に把握し、学習活動に反映させる。</p> <p>○自ら学習課題を見付けるために、ICT機器を有効に活用していく。映像をグループで見合うことによって、対話的な学習を活性化させる。</p>
外国語	<p>○デジタル教科書を活用した視覚的資料と連動しながら動画や音声を再生したことで、外国語の情報を聞き取り、理解することができた。</p> <p>○コミュニケーションを通して、日本語と英語の語順の違いに気付くことができた。</p> <p>○簡単な語句や基本的な表現を用いて発表することができた。</p>	<p>○相手を意識し、既習した表現や語句を用いて、自分の考えや思いを伝え合えるようにする。</p> <p>○大文字・小文字を活字体で書けるようにする。</p>	<p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、児童と共有する。また、相手にどのように伝えるか、話す順や表現を児童が自分で考え、判断、表現する場を設ける。</p> <p>○デジタル教材や、ゲーム活動等を取り入れて活字体を書く時間を繰り返し行い、文字の形と読み方を一致させる。</p>
道徳	<p>○事前アンケート結果をICT機器を使って提示するなど、導入を工夫したことで、児童が興味や関心を高めて授業に入ることができた。</p> <p>○児童の発達の段階に即して、教材選定を行ったことで、児童がより深く考えることができた。</p>	<p>○他者理解について、話し合い活動の時間を十分にとり、より深めることができるようにする。</p> <p>○児童自らの生活や経験を振り返りながら、積極的に道徳的価値を考え、深めることができるようにする。</p>	<p>○ホワイトボードやschoolTakt、付箋などを活用しながら、話し合う時間を十分確保し、対話を通して学ぶことができるように工夫する。</p> <p>○授業の最後に学んだことを振り返る時間を設定する。ワークシートをファイリングすることで、これまでに思考してきたことを確かめさせる。</p>